



発行所 東京片貝会 東京都港区芝公園2-11-4 電話 (433) 5925

みんなでお祝い

25周年記念 春の集いのご案内

昭和昭和58年5月27日(日)

昭和35年に発足した片貝会も、本年で25周年を迎えることになりました。これまで先達諸子の尽されてきたご努力に対して、改めて深い敬意を表します。

この記念すべき日を期して、更に変わらぬご支援をいただきたく、盛大に春の集いを催したく存じます。ぜひご参加をお待ち申しあげます。

- 一、日時 59年5月27日(日) 午後一時(正午より受付)
一、会場 東京新潟県人会館(台東区上野一丁目43-6 電82-171)
地下鉄千代田線「湯島」二分。出口は上野一丁目方面
銀座線「上野広小路」六分。国電「御徒町」七分
一、会費 四〇〇〇円(料理、飲み物、その他)
一、主な 郷里より来賓多数出席、近況報告。四尺玉、魚沼線廃止
内容 この冬の雪、新中学校長紹介、町の開発と将来、母校の近況、励ます会への願い、秋祭り等
一、余興 25周年を祝う芸能、あらかじめお願いし、多数の出演を期しています。返信にご内意を書き添えて下さい。

ふるさと学校は

昨年はいろいろの都合で、やむなく中止しましたが、本年の計画はまき具体化していません。実施するようになりましたら、お呼びかけ申しあげます。

同級会便り

十二同同志会(六九) 片貝往復のマイクロバスが送り迎えして、長野の湯田中温泉に一泊旅行。帰途は善光寺で、

会の動き

武見太郎先生(特別賞)逝去 五十八年十月十九日、本会の顧問広井三代次氏は、先生と長年の交誼があった。杉並の妙法寺で盛大な密葬があり、広井さんも供養をつとめられた。

武見先生葬儀 1月21日 雪の降りしきる青山葬儀場で。

中曾根首相をはじめ政財界、医学会の関係者多数が出席して、厳粛に執行された。

本会から安達電作、広井三代次、佐藤盛八、相崎勇次の四氏が参列して弔意を表した。

新年会 1月20日 新宿区須賀神社にて、二面参照

丑寅会(六五)

昨年は古稀を記念して花火を揚げたが、本年は特に計画はない。

和光会(昭6)

本年は六十五歳を迎えるので、秋祭りについての参加を、目下検討中。

生十四級友会(昭14)

毎年新年会を熊本で開いている。今回は十五名が出席した。

東京だけで一泊旅行をしては、との声も出ている。いずれ具体化されることであらう。

親和級友会(昭15)

新年会を1月29日に、新宿セントラルビル53階の東天紅で催した。参加者十三名、男より女性の多

出ている。

緑友会(昭22)

本年五十歳を迎え、これを記念して秋祭りにはお祝いをする計画である。六月には具体化の予定。一月十一日に品川の万歳で同級会があり、十六名が出席して、楽しい一夜を過ごした。

同心会(昭26)

上野のタカラホテルに一泊して懇親会。片貝からも二名参加して、二十三名が出席。恩師の内海光子先生を招待し、夜の更けるのも忘れて話した。翌日はなお密の堅い桜見物を。4月7・8日。

明志会(昭30)

本年四十二歳を迎えるので、秋祭りには世界最大の四尺玉を揚げる予定である。六月頃までに、この具体的な計画が決定される。頑張ってください。

陽光会(昭31)

2月19日に浅草の船場でクラス会。片貝からも八名参加して、全四二十五名の盛会であった。この日恩師の水島先生を招待して、盛会であった。

ゆくて会(昭18)

毎年の新年会を本年は休んだが来年は五十五歳の花火打ち揚げもあり、やがて具体化される見込み

和光会(昭20)

二月十八日に熊本でクラス会を開いた。参加者二十八名。六月中旬には、湯沢温泉での一泊旅行が計画されている。又秋にも懇親旅行をしたい、という話が

# 新年の集い

## 安達前会長の叙勲祝いを兼ねて

1月29日  
新宿・須賀神社

十日前に降り積った雪がまだ消えやらぬ。須賀神社の参道は冷え冷えとしていた。  
ここを会場にするのは、全く十年振りのことで、懐かしさもひとしおである。

### 安達前会長の叙勲

一時二十分に開会、相崎勇次さんの開会あいさつ、会長年頭の辞のあと、母校を励ます会の代表、佐藤祐一さんから、昨年来の温まるご協力に対し、その後の経過とともにお礼を申しあげた。  
久々に来会の先輩、安達市郎さんから、この度賜杯を受けられた



三重堀繁蔵さんの乾杯で、会場はいっせいに楽しい雰囲気が盛りあがる。安達前会長がいたいた木杯は朱塗りの三つ重ね、菊のご紋がきらきら光って

和気あいあい  
武見太郎先生のこと  
昨年十二月に逝くなられた武見先生のお出で、葬儀の様子について、広井三代次さんが報告された。先生と広井さんとは、長年にわたる交誼があつて、声涙に咽ぶ話には、一同深く感動させられた。先生は陰に働いて、本会のためにご支援をいただいた。改めて哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

親会の幕が開く。

前会長、安達竜作さんの栄誉を紹介していただく。  
長年化学工業界に尽された功績に対して、出席の一同は拍手で喜びを共にした。続いて、会からお祝いの品として清水焼の夫婦湯呑を贈呈。

### 武見太郎先生のこと

意気に、ひたすら感嘆するのみ。安達市郎さんは八十を越えて、今尚吟詠の師匠として活躍されているが、若い者に劣らぬ美声で、みんなを魅了する。拍手が鳴りやまなかつた。



る。みんなでこの杯に、新年の酒を注いで、しばし安達さんの余光を味わせていただいた。  
明治卒業の貴重な大先輩、丸山フジさんが昨春にひき続き、元気な踊りを見せてください。その心を

楽しい福引き  
みなさんからご寄贈いただいた品々をはじめ、会がよりすくつかつつききに余興が披露された。

### 集いも最高潮

福引きを、お年玉として、参加の皆さんにさしあげた。  
貴重な景品を、数々お寄せいただいた皆様に対して、厚くお礼を申しあげます。尚ご参加の全員にご年始として、優雅な便せんセツトをさしあげた。

いつ果てることもない、楽しい集いのしめくりに、恒例のしゃり演舞が始まった。勿論みんなの心は、故郷へ、故郷へと飛んでいた。  
木遣りの大合唱が、ほとんど全員から湧きおこる。みんなのどもかれてしまったようだ。こうして感動のうちに、幕となる。遠路ご参加くださった皆様には、深く感謝申しあげます。またいつもながら、心をこめてご出席いただいたいる箕輪先生をはじめ、新潟県人会、及び会員の六名様から、お祝いをいただきました。ここに記して厚く謝意を申しあげます。

### 来賓

箕輪みね先生  
東京新潟県人会(田中義一氏)  
明治  
丸山フジ 丸山幸三郎  
大正? 15  
安達市郎、安達竜作、大矢修一、松井平助、佐藤正雄、高桑きい、吉原ヤウ、藤塚ヨカ、広井三代次、黒崎セキ、丸山松江、神林徳次、相崎尚次、水内脩治、大矢福次、佐藤量八、安達宗高、安達徳太郎、永井正雄、安達清次、三重堀繁蔵、高橋清雄  
昭和? 10  
相崎勇次、山口ヨシ、小川茂雄

松井重治 芝 五郎、小野塚マツ、吉井武一、藤田睦子、浅田喜八郎、丸山 春、芋川とし、山口三郎、田口タズ、神林健次、勝又 功、黒崎孝造、大内登世、朝妻ヨシ、大矢幸治、芝三四司、堀井豊作、武藤睦子、奥田佳子、奥田和男、森本比夫  
昭和11 20  
高橋四郎、安達保治、太刀川善蔵、浅田鉄夫、佐藤広次、丹治きみ、佐藤進雄、小宮幸雄、山口光雄、浅田栄三、友田正雄、五十嵐直雄  
昭和21 30  
山岸慶昭、黒崎 正、児島良子、浅田六郎、石川春子、大矢ヨキ子、佐藤祐一、山口拓雄、久賀友作、黒崎 勝  
昭和31 32  
藤塚 悟、大塚国夫、諸我時夫、浅田達夫、吉井信三

### 深謝・皆出席の方々

この十年間の総会に、皆出席された方々は左の十名です。

相崎尚次、神林徳次、広井三代次、佐藤量八、相崎勇次、相崎善次郎、高橋四郎、小宮幸雄、藤塚 悟、諸我時夫

一、一回だけ欠席された方  
大矢福次、小川茂雄、日下部雅子、松井重治、山田雅子、五十嵐貞雄、芋川とし、黒崎孝造、大矢幸治、芝三四司、浅田鉄夫、山口三郎、武藤睦子、丹治きみ、豊島文江、小野塚茂  
(敬称略)

## 建築工具・金物一般

丸山 茂(昭8卒・寺町)  
江東区亀戸7-30-4  
(03-682-5510)

## 写真・写真材料

青木 富代(昭17卒・高見)  
(高橋)  
大田区東馬込1-19-4  
(03-772-1828)

## 東京海上代理店

吉原 栄一(昭22卒・茶畑)  
佐倉市上志津1474-63  
(0434-89-6611)

# 箱根路の

## 楽しい早春花の旅

(青鸞荘4月15、16日)

遅かった春も、暖かさを増してきて、おのずと心も浮き立ってくる。今回で五回目を迎えた花の旅は好天に恵まれ、何よりのことであつた。

一時過ぎに湯河原駅に集って、バスで花見台にゆく。毎度のことながら、広井さんが駅まで出迎えて、案内してくださる。

駅の周辺は、今を盛りと桜が咲いていたのに、ここはまだ蕾も堅く、例年のようなはなやかさにはほど遠い。この春はもう少し、先きのようだ。

ただ椿が赤く咲き、こぶしの真白い花がひととき美しい。ミルクのように暖く、なごんだ空のもとで、早春の箱根を十分に味わって



青鸞荘にくだる。この岩風呂は、幾度入っても興味が尽きない。湯の中で、身も心も打ちとけて語りあうのが楽しい。

この機会に、総会の準備について、皆さんの意見を聞き、懇親会にうつる。

今回は安達前会長も参加され、又若手の黒崎正さんが、多忙な社務を削いで出席され、会を盛りあげてくださった。今度始めての佐藤彦一さんをはじめ、みんなが得意なものを聞かせてくれる。

夜の更けるのも忘れて、歌いかつ踊った。毎年のように、万事万端お世話下さった広井さんには、ただ感謝のほかにない。

羽朝はゆつくりと、楽しい食事



の後、真鶴にゆく人、それぞれにコースを定めて散会した。

参加者(19名)  
安達竜作、相崎尚次、広井三代次、神林徳次、山口盛作、大矢福次、佐藤量八、安達宗吾、浅田喜八郎、相崎勇次、松井重治、芝五郎、黒崎孝造、勝又功、芝三四司、佐藤彦一、黒崎正、太刀川善藏、佐藤咲子

### 母校を励ます会

会報28号にて、58年10月31日現在の会計報告をいたしました。その後二十九人の方から、更に協力いただきました。厚くお礼申し上げます。総額九万三千八百円

- 大正8、14 佐藤正雄、黒崎ヨシ子
- 昭和2、10 勝又功、武藤睦子、浅田喜八郎
- 昭和18、19

### 会員よりお便り

(敬称略)

岡村タマ(大10) 毎度会報を楽しみに拝見させていただきます。

高野伊勢一(大13) ご手数ですが、故郷の便りをよろしくお願い申し上げます。

吉原菊枝(昭9) 母校の百十周年記念誌を読み、いろいろと参考になりました。

気田登美(昭19) 今後ともよろしくお願い申し上げます

吉原栄一(昭22) 母校を励ます会に対する、ご苦労に対して深く感謝申し上げます

佐藤孝二(昭22) 今高田は「采余の雪にすっぽり埋っています。例年花見は四月中旬と聞いていますが、その頃まで雪が消えるかと、心配になってくる今日此頃です。

松井重治、丹治きみ、小野塚まつ

その後の会計収支の明細は、次回の会報でお知らせいたします

が、3月31日までの全収入、支出は左記の通りとなっております。

収入一、〇三七、四一〇円

支出 二五二、五〇〇円

現在高 七八四、九二〇円

収入の中には、割引債の先取り利息を算入してあります。

最初の目標額百万円は突破しましたが、印刷・講演の費用がかか

るため、なお不足が見込まれますので、今後ともよろしくご支援を

お願い申し上げます。

勤務の都合で、時々東京を離れますが、今後ともよろしくお便り申し上げます。

佐藤さんはこの度高田の郵便局長に栄転された。心からお祝い申し上げます。発展をお祈りします。

安達 実(昭26) いつもお便りありがとうございます。懐かしく読ませていただいています。

安藤真理子(昭26) 本年四月からまた皆様のお仲間に入れさせていただきますので、よろしくお便りいたします。

(名古屋から元の岩根に戻ってこられました)

五十嵐淳二(昭27) 会報を楽しみに読ませていただいています。

松本キイ(昭29) 会の発展をお祈り申し上げます。

### 母校を励ます会の 発足を喜ぶ

小野塚れつ(昭7)

今般「母校を励ます会」が、発足されましたことは、誠によきことと存じます。経済成長に伴ない混乱する社会、校内暴力事件の横行を、日々耳にする昨今、母校を愛する結晶のひとつとして、善良なる後輩を指導するための、よき名案と嬉しく存じます。

多忙の日々の中、お世話くださる方々のご苦勞を、心から感謝申し上げます。

## KK・高田設備 東急ホーム

(045-715-1511代)

本田 正弘 (昭28卒・沼田)  
横浜市港南区下永谷町2612-42  
(045-823-0908) 自宅

## 安田火災海上 代理店

吉井 信三 (昭32卒・稲場)  
世田谷区船橋7-8-2-612  
(03-484-0661)

## 美味豆腐・がんもどき

浅田 達夫 (昭32卒・五ノ町)  
東村山市青葉町2-8-19  
(0423-93-9589)

ふるさとは今



さようなら魚沼線  
3月31日は魚沼線最後の日であった。午後7時7分発の来迎寺ゆきに合わせて、市長を始め、関係者、一般市民が多

数見送った。全員で「木遣り」を歌い、運転手、駅員に花束を贈呈、しきりに花火を打ちあげて、盛大に最後の列車を見送った。このあとふるさと  
と会館で、魚沼線を惜しむ会を開き、名残り尽きない思い出を語りあった。  
魚沼線は明治44年に私鉄として開通した。その後国鉄に買収されたのが大正11年である。戦争中の六年間、営業を停止していたが、25年に片貝、来迎寺間だけ貨物輸送を開始し、完全に復活したのは、昭和29年からであった。思えば、七十年の長い間、片貝の足としてお世話になったのであ

東京片貝会会計報告 (自昭和58.4.1 至昭和59.3.31)

収入 ¥1,773,175	支出 ¥1,773,175
前年度繰越額 360,017	総会費(91) 382,000
年会費(364名) 304,650	(料理・会場費 306,000)
別途積立(前年度繰越) 400,000	(片貝せんべい 15,000)
総会費(86) 301,000	(お祝記念品(3) 6,000)
新年会費(76) 243,200	(来賓土産費 53,000)
寄付・お祝 123,300	(雑費 2,000)
銀行利子 39,008	新年会費(78) 226,960
雑収入 2,000	(料理・果物 123,400)
	(料飲席前会費 36,960)
	(お祝い金 4,500)
	(お福引 25,600)
昭和59年5月27日	会議諸費(4) 33,880
上記の通り報告いたします。	印刷費(出席表・案内) 34,300
会計部長 黒崎 孝造	通信・郵送料 200,345
〃 副部長 山口武一郎	交通費 12,630
上記は適正且つ正確であることを認めます。	事務処理費 1,380
会計監査 小川 茂雄	交際費 26,000
大矢 幸治	(県人会・浅原神社・片貝小)
高橋 四郎	振替手数料 12,160
	写真代 3,000
	片貝小百十周年寄付 200,000
	別途積立(次年度へ) 200,000
	次年度繰越額 333,260



新しい中学校の校長先生  
前の林 鉄雄先生は、五年間お勤めになられ、生徒や父兄の信望も篤かったが、この度郷里の十日町市の南中へ栄転された。  
後任には桜井澄雄先生が着任、先生は初代校長の桜井三代松氏の次男で、浅からぬ縁に一同歓迎している。歓迎会は、3月31日盛大に開かれた。林先生は、母校を励ます会で、大変お世話になった。  
小千谷の未来を考える  
審議会  
明日の小千谷を総合的に計画立案する審議会ができています。  
委員長は小千谷病院の理事長で、副委員長には、片貝農協の組合長本田初太郎氏がなられた。委員は22名で、この中には、市議の本田善治、芝野三郎氏もおられた。

る。これらのご活躍を、大いに期待したい。  
雪上運動会 3月4日  
毎年大屋敷の雪原で、子ども中心の運動会が実施されている。今年で8回目  
パン食い競争、たるころがしなど盛りたくさんの種目で、楽しい一日を過ごした。  
雪原まつり 3月18、20日  
毎年小栗田原をメイン会場にして、市内各所で雪まつりが催される。何といっても呼び物は、熱気球揚げ。一球揚げるのに、二、三百万円もかかるという。片貝からも一球あげて、競技に参加した。  
ほこ揚げ、モデルの撮影会、綱引き、カラオケ大会、スキー競技など盛りたくさん。片貝交所前から、無料バスが出て、皆さんを送り迎えてサービスした。  
農協のこの頃  
町の経済の中核ともいふべき農協は、町民にとっては不可欠の存在である。  
長年明朗参事さんとして親しまれてきた相崎勇吉氏(一の町福井)は、このほど定年退職され、総務部長だった黒崎力男氏(寺町)が選任された。今後の活躍が、篤実な人柄とともに期待されている。

紹介  
鎮守一王子大権現記考  
かつて小千谷市の助役をされ、神宮でもある柄沢栄夫氏が著者。浅原神社の由来記ともいふべき本が、吉原印刷から出版された。片貝の先人がいかに浅原神社を尊敬していたか、又神に対する心がまえなど、分かり易く説いてある。広く一般の人にも参考となる。  
A5判、55頁、頒価五〇〇円  
ご希望の方は、総会返信はがきにて、申込んで下さい。総会の当日お渡しします。  
郵送希望の方は、送料一四〇円を加えてご送金のこと。尚直接に片貝農協へ申込まれても結構です。農協の窓口で受付けています。残部は僅少のことです。早目にお申込みください。  
あとがき  
十年間、毎年2回ずつ発行してきた会報も、次回で30号となります。僅か四頁しかない内容でも、それなりに苦心がありました。故郷の情報をたえず送って下さる農協の友田明石さん、写真を撮って提供していただいた、佐藤正雄、星野三作、松井重治の各氏に、改めて感謝申しあげ今後ともよろしくご支援くださいますようお願い申し上げます。  
会員からのお便りでも、会報がかなり期待されていることを知り骨おりがいがありました。皆様のご多幸を祈ります。